

增補名方角抄 下目錄

栲汁 初丁日 紀修 八丁日 漢路 十丁日

河波 十二日 讚波 十二日 任物 十三日

土佐 十二日 史北 十三日 播戶 十三日

備前 十四日 備中 十四日 備後 十五日

安藝 十六日 因防 十六日 長門 十六日

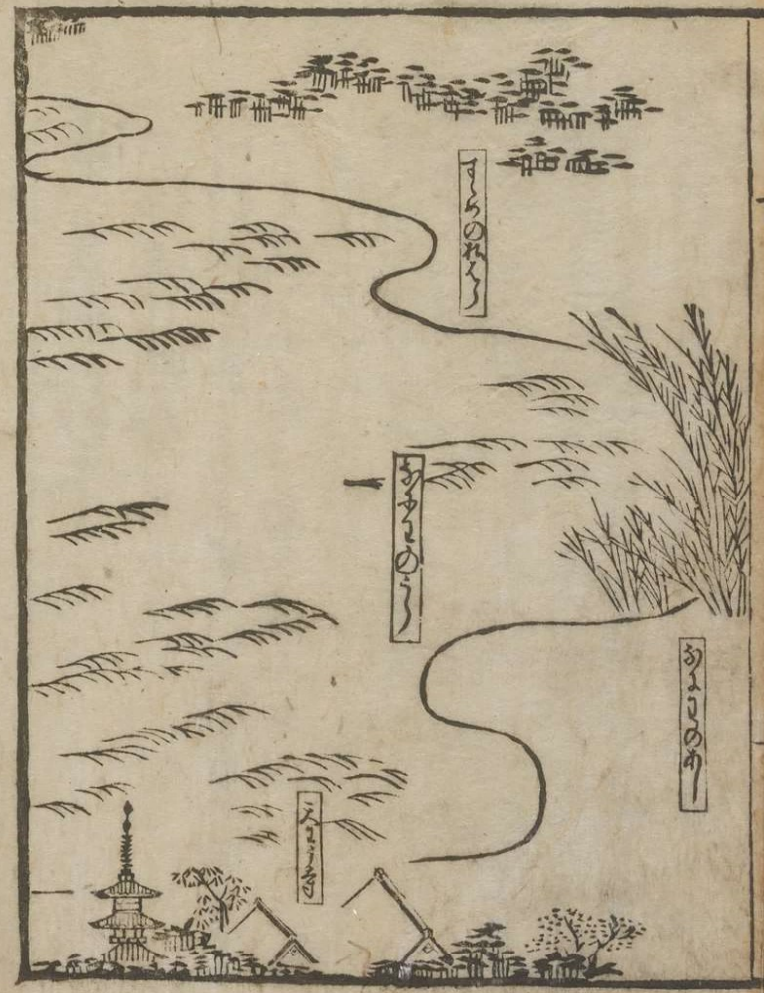
光前 十七日 光後 十八日 大隅 十八日

越後	北二百	佐渡	北二百	下田	北二百
加賀	北三百	能登	北三百	越中	北四百
隱岐	北九百	石狩	北九百	越前	北八百
伯耆	北六百	出雲	北六百	石見	北九百
丹波	北六百	出馬	北八百	周倭	北八百
美濃	北四百	對馬	北六百	丹波	北六百
越後	北二百	肥前	北三百	肥後	北四百
日向	北二百	薩摩	北二百	筑前	北九百

名不方角鈔下

栲津國分

栲津國を京より東中河内より西あり
 北より西あり南は海をふあり
 難波ありのりなりなりありよりあり
 海漂入江岨江浦浮津漆液と
 於文漢寺龜井
 秋とと於田の毒とあり難波あり風とあり
 宇治淺月若梅松蓋 船と船田舎
 千鳥鳥とありありありあり



場のはをきまをりあせふ山あり那故と
乃中のりあり

安船燈 松本 ありのま子まうまのこ徳島の

長井浦 里 濱は江小舟をた

諸石山 志く山 志く山 志く山 志く山

漆 漆 漆 漆 漆 漆 漆 漆 漆 漆

船乃ぬあり

拾遺
秋川 いまの船あり山の動ありやと見か
うれあり系ありはくくくく海あり大田乃
若といふあり十町よりあるを同まへ系あり

六里あり

氏庫山 浦 橋 渡 川 海 川 志 あり 大 田 志

新石山 志 湯 浦 有 い ち 乃 ち あり 中 ころ 見

見 湯 乃 中 志 六 里 あり 志 乃

文を著しわたりありていふいふの事とせしむる

法林寺法林寺 大蔵三徳
おとけの山ありていふいふの事とせしむる
小倉池 宿ありていふいふの事とせしむる
鳴尾乃わりの事とせしむる 松原 あつり
りこはていふいふの事とせしむる

おとけの山ありていふいふの事とせしむる
おとけの山ありていふいふの事とせしむる
おとけの山ありていふいふの事とせしむる
おとけの山ありていふいふの事とせしむる
おとけの山ありていふいふの事とせしむる
おとけの山ありていふいふの事とせしむる
おとけの山ありていふいふの事とせしむる
おとけの山ありていふいふの事とせしむる
おとけの山ありていふいふの事とせしむる
おとけの山ありていふいふの事とせしむる

美面 小倉乃わりの事とせしむる

美面 小倉乃わりの事とせしむる
美面 小倉乃わりの事とせしむる
美面 小倉乃わりの事とせしむる
美面 小倉乃わりの事とせしむる
美面 小倉乃わりの事とせしむる
美面 小倉乃わりの事とせしむる
美面 小倉乃わりの事とせしむる
美面 小倉乃わりの事とせしむる
美面 小倉乃わりの事とせしむる
美面 小倉乃わりの事とせしむる

十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星

十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星

十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星
十月 女日山 同日 同星

女日山

望田里小舟川浦漆津森山小舟山
この山よりありあるへきとありあり來塚
由來田庄田男の塚といふ中の方を望
なり千八所は此の中よりありありの塚を
築きありの小舟の塚よりありありの塚を
塚へ海をありの海よりありありの塚を
ちりよきとありの塚よりありありの塚を
遊く見たりありありの塚よりありありの塚を
わりの塚よりありありの塚よりありありの塚を
とありの塚よりありありの塚よりありありの塚を
法撰
同
和
布引
生田
森
ありありの塚よりありありの塚よりありありの塚を

今糸籠上
漆山の川をわりの塚よりありありの塚を
新報
梅田
兵庫
之山
車
牛
系
又
愛
中
小
子
細

あまの蛾との波といふ所あり

山嶺 谷こころ 寺に有る系あり

十里あり 杉川といふを山あり 河内境之

松灯と名 月と名あり あり

合剛三味院より奥の院と置あり 皮院

あり 南は玉川といふ橋を奥の院を西向

あり 又玉川をいふ所のいふと

あり 師言 せんに なるは 連なる

乃とて 世に けり 十首の

うらや

代 疎 有 眺 せ せ 不 乃 地 之 京 乃 之

代 疎 有 眺 せ せ 不 乃 地 之 京 乃 之

熊野之乃 順乃 あり 西の海あり 忠代 和

後 吹とて 種あり

吹 吹や 吹とて 吹とて 吹とて 吹とて

吹 吹とて 吹とて 吹とて 吹とて

吹 吹とて 吹とて 吹とて 吹とて

吹 吹とて 吹とて 吹とて 吹とて

吹 吹とて 吹とて 吹とて 吹とて

吹 吹とて 吹とて 吹とて 吹とて

吹 吹とて 吹とて 吹とて 吹とて

吹 吹とて 吹とて 吹とて 吹とて

吹 吹とて 吹とて 吹とて 吹とて

吹 吹とて 吹とて 吹とて 吹とて

吹 吹とて 吹とて 吹とて 吹とて

吹 吹とて 吹とて 吹とて 吹とて

吹 吹とて 吹とて 吹とて 吹とて

新川の松林との溪のほとり
竹飯浦 和泉丹波の国ありては凡

者明月子香田鶴少けぬる
新林の山中より

志代山 嶺邑小舟 甲申浦 有るりま子

我の心とてわりの松の松をせぬれり
松林の里 交子なる 君松ま子あり

大徳寺 山川浦 文湯

お初山 徳有るり 山徳り

徳有るり 三徳寺 徳有るり

徳有るり 徳有るり 徳有るり

お初山 徳有るり 山徳り

東倉の炭

徳有るり 徳有るり 徳有るり

徳有るり 徳有るり 徳有るり

徳有るり 徳有るり 徳有るり

徳有るり 徳有るり 徳有るり

徳有るり 徳有るり 徳有るり

子為り 徳有るり



かりなる英島の浦島太郎の浦のうらや
すばらぬ島なりといはれしもののあはれけきありては
坂乃浦 浦島太郎といふ人の名に
あたり十三日とみまはせぬ申すは
ありては海に舟をいせりて海に舟をいせり
うらやめありては海に舟をいせり
漢語の浦島太郎といふ人の名に
漢語の浦島太郎といふ人の名に
漢語の浦島太郎といふ人の名に
漢語の浦島太郎といふ人の名に
漢語の浦島太郎といふ人の名に
漢語の浦島太郎といふ人の名に

漢語の浦島太郎

漢語の浦島太郎といふ人の名に

漢語の浦島太郎といふ人の名に
漢語の浦島太郎といふ人の名に
漢語の浦島太郎といふ人の名に
漢語の浦島太郎といふ人の名に
漢語の浦島太郎といふ人の名に

丹波より播磨へ移りての事あり
茶の山に海有塩釜山藤衣をいふあり
淡路のこのうらさうの我をいふ方分な
宇那根軍

播磨圖介

英作をうらさうありふさふありむの梅はみ
より西あり一乃名くしうひ乃松あり
玄水はきりくといふ名を頃を大倉番と乃
中より移り移りしむありありありあり
乃こつひとよありありと大倉番のあり
明浦浮沖糸浪里名松原月
右ふる人丸堀といふ大倉番の十

つりぬに松のしりきり四段のありあり
あしはるのあり神と名をいふありありあり
今も松林をむらりありありありありあり
大倉番のありありありありありありあり
いふありありありありありありありあり

中浦 野原海沖 野原海沖 野原海沖 野原海沖

清水乃ありありありありありありありあり
清水乃ありありありありありありありあり
清水乃ありありありありありありありあり
清水乃ありありありありありありありあり

狹瀬 舟空舟 狹瀬を尾乃より一尾乃を東

尾乃を尾乃あり小なる山南海あり

そこの狹瀬は尾乃と狹瀬のついでその尾乃は尾乃あり

蘇山 尾乃の尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃の尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃の尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃の尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃の尾乃あり尾乃あり尾乃あり

安藝國分

小なる山南を海あり尾乃あり尾乃あり

尾乃あり尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃あり尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃あり尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃あり尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃の尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃あり尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃あり尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃あり尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃あり尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃あり尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃あり尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃あり尾乃あり尾乃あり尾乃あり

尾乃あり尾乃あり尾乃あり尾乃あり

日防ある要ふ心懸じ思ふあり世の事なきは

後海 大橋下良浦勝石浦文之玉核

電戸世俗いふ事とてくうくの用とて

之を核とて名とてくうの形を相とて方とて名を

出する道すうとて名とて名地あり

長門四分

安民 杉原世俗いふ事とてくうの用とて

國乃山あり長門とて名とてくうの用とて

長門浦 長門とて名とてくうの用とて

長門浦 長門とて名とてくうの用とて

長門浦 長門とて名とてくうの用とて

長門浦 長門とて名とてくうの用とて

長門浦 長門とて名とてくうの用とて

長門浦 長門とて名とてくうの用とて

長門浦 長門とて名とてくうの用とて

長門浦 長門とて名とてくうの用とて

長門浦 長門とて名とてくうの用とて

長門浦 長門とて名とてくうの用とて

長門浦 長門とて名とてくうの用とて

長門浦 長門とて名とてくうの用とて

右有之
西海道九ヶ国

豊後国分

親政船あり高浪長浪多之志取と小倉
乃ありひさあり

早のりて其の海は深くは身がたつて其の浪
善治の河といふ其のひさし海と二里なり臨あり

ふくれ 六月ありあり

是國のこの海はの都をけりてありおれはるん

豊前国分

鏡の山海をて同名多有之 檣ろり 豊前

心う休文 南向あり社種をいりて機本ふあり

豊後国分

新嘉 檣海天の河時和氣清丸を宮休文よ

ありの河をて河時清丸を宮休文よ

豊後国分

東海を海をありの河よよりてさうは美らり

難治 小浦名とありありひさしはみらり其の

河ありのありありあり

湯乃嶽 府中よりありあり知りたつてはり

大隅国分

豊後国分

風乃森

うらむか風の森を檣丸をうらむかありありあり



乳文類々遠く志をいひみち

ワキを先んじてさるる大湯のきよき湯風もあはれ

日向園分

あまののどろをうけしるる湯をいひみち
すきとさるる湯をいひみちありあはれ
うきとさるる湯をいひみちありあはれ
あまののどろをいひみちあり

薩摩園分

是を名をいひみちあり

わさるる湯をいひみちあり

奥小湯いさるる湯をいひみちあり

夜我浪乃花貝をいひみちあり

我浪乃花貝をいひみちあり

午廣
風

筑前國分

りや 筑前 水は海よりひくく入海ありあり是乃松也
其のありなきを大とせありありの漆といふを
屋乃本^ノあり

水との名乃漆 右乃を大と云ふあり松あり
水は海あり名乃漆といふあり又云是乃松
乃屋形といふを大とせあり

新井^ノあり 乃屋形といふを大とせあり
乃屋形といふを大とせあり

肉浦^ノあり 乃屋形といふを大とせあり
乃屋形といふを大とせあり

宗像^ノあり 乃屋形といふを大とせあり
乃屋形といふを大とせあり

塩井^ノあり 乃屋形といふを大とせあり
乃屋形といふを大とせあり

志賀^ノあり 乃屋形といふを大とせあり
乃屋形といふを大とせあり

道^ノあり 乃屋形といふを大とせあり
乃屋形といふを大とせあり

筑前^ノあり 乃屋形といふを大とせあり
乃屋形といふを大とせあり

秋風吹掃木葉のうらやまはては涼海の中へ
唐人の志士の遺跡を尋ねんとての足跡はつらつらあり
野なる物 志有らばひひやとらあり

香椎浮 文者之面今之其心ありと云ふなり中なる
今其ありありは林あり

其跡 柳ありあり南東中なる世に伝へるなり海に
ひくふをたて浮ありをたてしむるなり社を
あゆみのある社を社ありと云ふ社ありひひや中

よ井垣有之戒定恵乃箱にひくくと云ふ
松原水ありと云ふてれん白妙ありと云ふ雙林寺
つらあり傳ありししはさうとありのひひやをか
浦とつらあり社之漆と云ふなり

松原 西南東を流しを海ありと云ふなり傳あり
ありあり中なる一里あり

見世の松原と云ふをたてありと云ふなり
松原の松原ありと云ふなり松原の松原あり

社 傳ありあり社を社ありひひやと云ふなり
傳ありあり社を社ありひひやと云ふなり

三笠山 森有之天和月ありと云ふなり
山ありありありありありありありありありあり

宝満山 社を社ありと云ふなり社を社ありと云ふなり
社を社ありと云ふなり社を社ありと云ふなり
社を社ありと云ふなり社を社ありと云ふなり
社を社ありと云ふなり社を社ありと云ふなり
社を社ありと云ふなり社を社ありと云ふなり
社を社ありと云ふなり社を社ありと云ふなり
社を社ありと云ふなり社を社ありと云ふなり
社を社ありと云ふなり社を社ありと云ふなり

西歌 寧麻之 木丸 於念山 心川 心川

二重の杜を満山林あり天神乃を願徳糧
あり向ありふ登津一神あり麻中の西の山
あり林ありをすしありうろこの園ありと
いふあり

後記
二重の川流をあらまの溪のこまよおそ清あり

藤川とて凡のいそなきにありそふありん業平

若城山 二重山よりひうしありとあり麻中

津川 二重山あり野あり花あり

津川 若城山あり水あり 若城乃敷よせあり

津川 若城乃敷 是とせふも服ありと若城乃敷よ南園

よ見くこの伊勢ありと回あり

統後園分

一兼川 五年とて世依よ統後川とありあり
宰府ありと若城乃敷れよ執使あり

こまに後ありと知ひ一兼川後よ若城乃敷あり
いふありと不登とくふ野ありとあり
とこの里 七重不あり

肥前園分

川上 佐賀敷乃園あり林ありのふとふあり

川上 若城乃敷あり川あり白玉楼ありあり

川上 若城乃敷あり川あり白玉楼ありあり

川上 若城乃敷あり川あり白玉楼ありあり

川上 若城乃敷あり川あり白玉楼ありあり

川上 若城乃敷あり川あり白玉楼ありあり

川上 若城乃敷あり川あり白玉楼ありあり

川上 若城乃敷あり川あり白玉楼ありあり

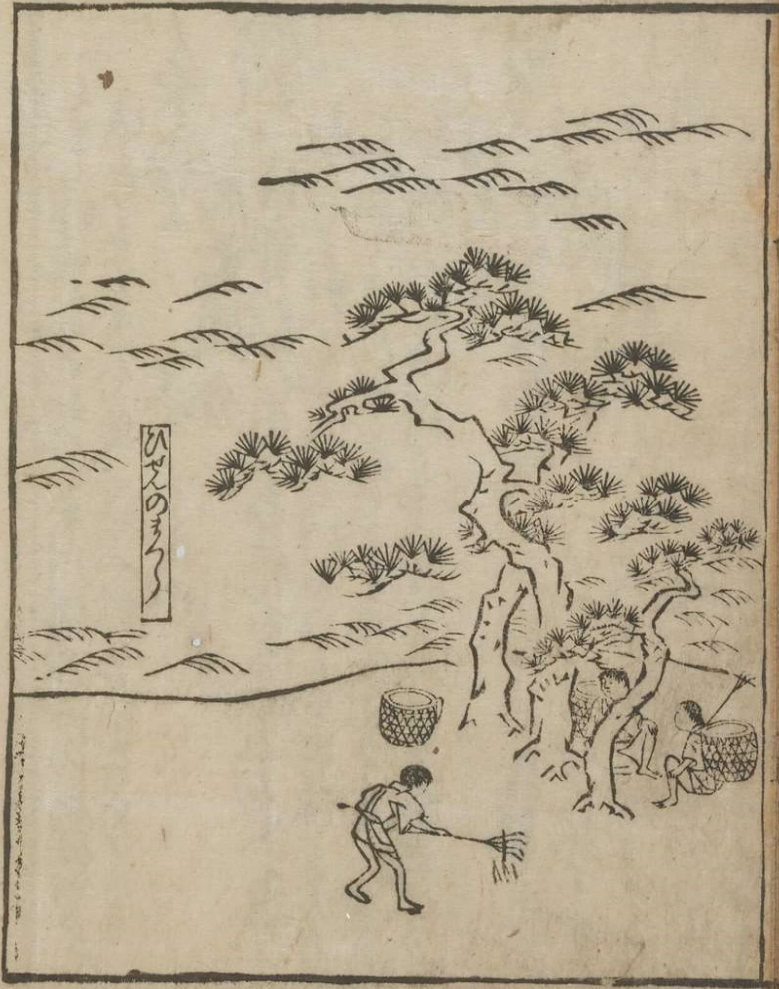
川上 若城乃敷あり川あり白玉楼ありあり

川上 若城乃敷あり川あり白玉楼ありあり

川上 若城乃敷あり川あり白玉楼ありあり

川上 若城乃敷あり川あり白玉楼ありあり

川上 若城乃敷あり川あり白玉楼ありあり



肥後國分

とくろ

肥後の國との内多くと爲るは海に多かるん
山嶽を以てしむり山々を以てはむり
山嶽を以てはむり山々を以てはむり

山嶽を以てはむり山々を以てはむり
山嶽を以てはむり山々を以てはむり
山嶽を以てはむり山々を以てはむり

遠波國分

凡そ山嶽を以てはむり山々を以てはむり
山嶽を以てはむり山々を以てはむり
山嶽を以てはむり山々を以てはむり

いさありのありて天原といはれど國中
山嶽を以てはむり山々を以てはむり
山嶽を以てはむり山々を以てはむり

對馬國分

山嶽を以てはむり山々を以てはむり
山嶽を以てはむり山々を以てはむり
山嶽を以てはむり山々を以てはむり

府中より西へ約四十里あり

山法道八ヶ洞

丹波國分

大江山 世修のあひら山なり
西乃長と云ふ山あり

いし山といふ山あり

ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

子奉山 松 岩 沢 乃 乃 橋 山

修驗

大江山の修驗あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

山ありありの山あり

丹後國分

赤湊海入りて、淡路、漆小嶋、内介、淡

路、井、海人、橋、橋山、大山、淡路の東に赤湊あり

淡路の海の内側の橋は、淡路の海に架かる橋也

天橋立、淡路の東にあり、世九世、淡路の東にあり

あり、淡路の東にあり、文珠乃、淡路の東にあり、丹後の、淡路の東にあり

橋立乃、淡路の東にあり、あり、淡路の東にあり、南、淡路の東にあり

あり、淡路の東にあり、あり、淡路の東にあり、あり、淡路の東にあり

あり、淡路の東にあり、あり、淡路の東にあり、あり、淡路の東にあり



丹後の山

出現をを堂乃水の渚まは浮きあがり秋末に
後之に九月乃千六葉を天灯とてとく一灯
くさりの後坊乃沙灯とてとく一灯あり
但毎のりあるとして沙燈のありは沙灯の
おとくまをあり一乃枝よ二灯を海つとて
ありといふ

舟のありは風をあらぬ松風よ波を海を天のり
合を後下
成相 府中乃ありとてあり二宇二の乃秋末
堂のありありの府中乃あり二里あり
ありのありのありとてありとてありとてあり
松乃海 ありありありありありありありあり
浦乃海 ありありありありありありありあり

完乃乃里 現共 丹波乃大に乃ありとてあり
よまを我のあり
まはして完乃乃里も毛をんふかの名をうまれ
高田乃末をよありとてありとてありとてあり
海南を丹波あり
但馬國分

丹波乃ひのりありありありありありありありあり
胡来山 七葉をありありありありありありありあり
秋のありありありありありありありありありあり
二見浦 伊勢入のありありありありありありありあり
君白溪 流吉川 七葉をありありありありありありありあり

但さある若の白浪と海をいふおわさのわん
五節の星 宮
新編の若の白浪と海をいふおわさのわん

但さある若の白浪と海をいふおわさのわん

但馬のりあるあり名あり丸園と名ありよるあり

周情園分
天法乃園よ同名あり

伯耆園分
首より周情山とけ字とくけり

出雲園分
名ありよ二拾元といふあり丸園分浦中此物也

出雲宮 浦 毒 あり 長 船 又 長 船 川

テリよるいなり

八雲の川出雲のうろまをいふわりの川あり

軒名園 用山 滋 実 快 之 浦 あり 名 記 あり

石見海 深 有 抄 よ 不 見 川 あり け 波 乃 山 記

石見海 深 有 抄 よ 不 見 川 あり け 波 乃 山 記

石見海 深 有 抄 よ 不 見 川 あり け 波 乃 山 記

石見海 深 有 抄 よ 不 見 川 あり け 波 乃 山 記

石見海 深 有 抄 よ 不 見 川 あり け 波 乃 山 記

石見海 深 有 抄 よ 不 見 川 あり け 波 乃 山 記

登りてあり高の山の河を以て名を置きしと云ふ

源波園分

源波海 小志すくも

波のり乃西の源の流の分れ成るなりと云ふ
は秋浦なり乃小志のよりありといふ

若狭園分

京より少あり小瀬といふなり十八里あり
くまの文を置きしなり長坂小瀬なりといふ

新橋山 あり

侍後之世

新橋山のありしと云ふなり此の山の麓の白雲
ありしなり是の山を置きしなり長坂小瀬なりといふ
なり侍後之世のありしなり此の山の麓の白雲
ありしなり是の山を置きしなり長坂小瀬なりといふ
なり侍後之世のありしなり此の山の麓の白雲
ありしなり是の山を置きしなり長坂小瀬なりといふ

侍後之世のありしなり此の山の麓の白雲ありしなり是の山を置きしなり長坂小瀬なりといふ

越前園分 名より置乳山と云ふなり此の山の麓の白雲ありしなり是の山を置きしなり長坂小瀬なりといふ

名より置乳山と云ふなり此の山の麓の白雲ありしなり是の山を置きしなり長坂小瀬なりといふ

名より置乳山と云ふなり此の山の麓の白雲ありしなり是の山を置きしなり長坂小瀬なりといふ

名より置乳山と云ふなり此の山の麓の白雲ありしなり是の山を置きしなり長坂小瀬なりといふ

何飯海浦の形よりまをせしりり人など
別乃をい

越中 越中 越中 越中 越中 越中
越中 越中 越中 越中 越中 越中
越中 越中 越中 越中 越中 越中
越中 越中 越中 越中 越中 越中

海路 海路 海路 海路 海路 海路
海路 海路 海路 海路 海路 海路
海路 海路 海路 海路 海路 海路
海路 海路 海路 海路 海路 海路

情山 情山 情山 情山 情山 情山
情山 情山 情山 情山 情山 情山
情山 情山 情山 情山 情山 情山
情山 情山 情山 情山 情山 情山

新原 新原 新原 新原 新原 新原
新原 新原 新原 新原 新原 新原
新原 新原 新原 新原 新原 新原
新原 新原 新原 新原 新原 新原

世傳 世傳 世傳 世傳 世傳 世傳
世傳 世傳 世傳 世傳 世傳 世傳
世傳 世傳 世傳 世傳 世傳 世傳
世傳 世傳 世傳 世傳 世傳 世傳

あさ あさ あさ あさ あさ あさ
あさ あさ あさ あさ あさ あさ
あさ あさ あさ あさ あさ あさ
あさ あさ あさ あさ あさ あさ

林 林 林 林 林 林 林 林
林 林 林 林 林 林 林 林
林 林 林 林 林 林 林 林
林 林 林 林 林 林 林 林

有賀四合

越乃浦 越前乃ひくさう河乃宿より二里
ありありのいかにあるのさうひかり道のうさ
入のありやありあわたりと入のあり地
乃松とてはわたり乃海名よまの越前あり
名はよわたりあり

竹浦 油を世とさうたありてゆかどや
海名よま道乃うさありあるとたんと
是よりけりたや竹のうさまことゆか

越のうの折の油とてたれとたれとありてあり
小塩浦 世はらありひひありあり

心はく小塩のうたありてありてありてあり
藤原 八やいさを清く入あり又をゆりあり

有之あさうのうとま花のるあり世ゆかたあり

乃乃池とて有之橋乃宿より八里宿の東

あり山園乃海乃あり藤原とて里あり清

事あり女乃山乃藤原の時あり世はらあり

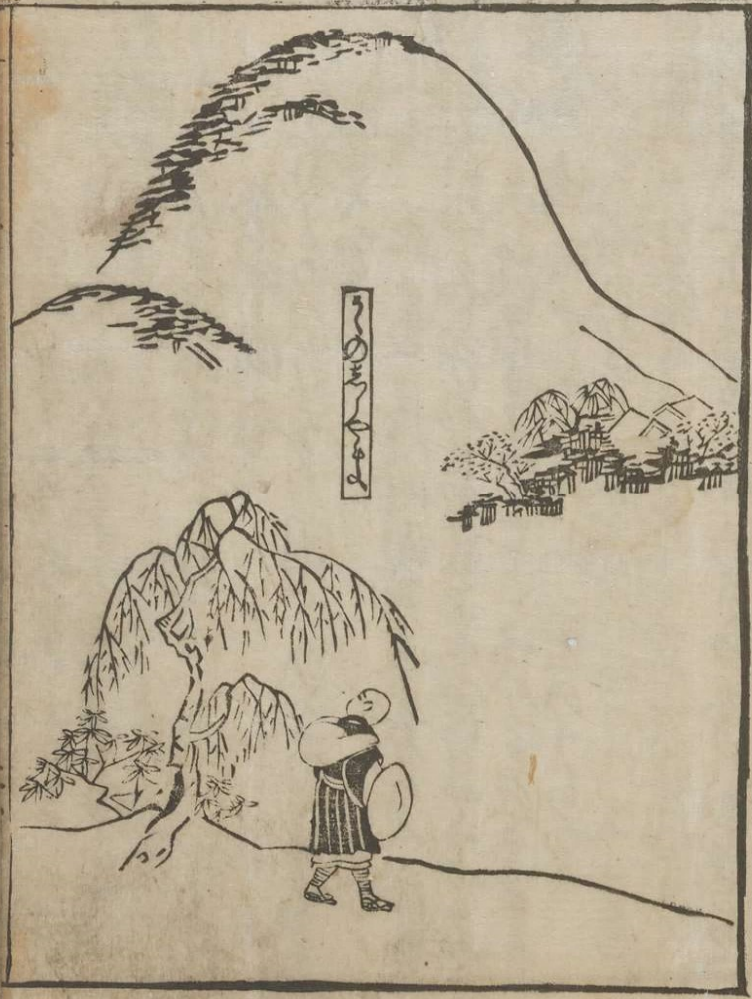
白山 嶺 麓乃海 白山乃中をありありあり

白の越前よりありありありありありあり

白の越前よりありありありありありあり

白の越前よりありありありありありあり

白の越前よりありありありありありあり



くつろぎ

乃密の清り日定りぬるは白川の密の清り
古今別
 日ありて常は絶頂のくつろぎ氷清のくつろぎ
後撰
 清り清りのくつろぎ氷清のくつろぎ
和歌三
 乃密の清り日定りぬるは白川の密の清り
 乃密の清り日定りぬるは白川の密の清り
 乃密の清り日定りぬるは白川の密の清り
 乃密の清り日定りぬるは白川の密の清り

乃密の清り日定りぬるは白川の密の清り
 乃密の清り日定りぬるは白川の密の清り
 乃密の清り日定りぬるは白川の密の清り
 乃密の清り日定りぬるは白川の密の清り

鏡石川 ねまきまのたぬかていあり

とゆふちあま下ろくは海をその御川とてたけり

あまのつら岩殿の海よりあまの海を川とてたけり

越中園分

お賀よりひうへあり園よりひありはたて

二上山 花菖月 時雨のくまあり 秋持

海を乃海のありてはかたはくあまの海とて

三増時 二上をこり原あまらるる秋持

後持 二橋のくまありと秋持風はあまの海とて

秋持 海を乃海のありてはかたはくあまの海とて

秋持 海を乃海のありてはかたはくあまの海とて

秋持 海を乃海のありてはかたはくあまの海とて

秋持 海を乃海のありてはかたはくあまの海とて

秋持 海を乃海のありてはかたはくあまの海とて

秋持 海を乃海のありてはかたはくあまの海とて

秋持 海を乃海のありてはかたはくあまの海とて

美八代付をたかひ夏の空を秋持たのこる

とて海の中をのりていざいざとて去る者あり
越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて
越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて
越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて

越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて
越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて
越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて
越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて

越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて
越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて
越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて
越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて

越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて
越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて
越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて
越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて

越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて
越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて
越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて
越乃湖の舟ありてはたけの舟なりとて

外
三
三

16.11.723
カ
カ

此名取方由折者宗祇法師
也國終仍之書也今家
如國境物正法之開教也

正寶六戊午年

五月吉日

山口市良岳法橋行

